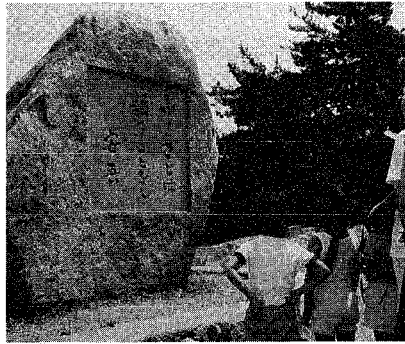


己のごだわり、魂が 新潟の文化を

新潟・市民映館
シネ・ウインド代表
齋藤 正行 さん



いに染みまき。それと、おもろい人間を若いうちから育てなければいけない。そして、おもろい人間(ヨソ)を新潟に住ませれば良い。または、新潟舞台に仕事をさせるか、遊ばせることが肝腎である。己の良きは他人に言われて初めて気がつくものである。



慶國神社にある新潟市出身作家・坂口安吾の碑

「まちづくり」の言葉の意。また都市機能も都市設備も他に比べて悪れている。街づくり、都市開発、街の活性化、等々から「まちづくり」にこれは何を意味しているかを考えてみる。以前に比べて市民の側に立って発想ではないかと思う。それにより「まちづくり」が、市民生活にとってほとんど苦にならない。それは「この新潟のまちが豊かであるから、そして、その豊かさは水に尽き、天然自然の恵みが大いにおもろい人間、恐れず大いに楽しむべきである。」

健康寿命を伸ばし 素晴らしいまちづくりを



黒鹿健康管理協会
鈴木 寛 さん

新時代にマッチした健康づくりと健康管理に努める必要がある。我が国は世界の長寿国になったが、寝たきりや痴呆ほうふた状態が社会の生活になって、六十五歳以上の高齢者が現在や老化現象による病気が大なり、間もなく倍増すると推定されている。長生きするだけでなく、その生き方もある。要は、熱を燃やす青年である。市の若さと発展を支えるのは、若い健康な市民の力であり、ここでいう若いとは戸籍上の年齢ではなく、自らの肉体的若さである。新潟市民すべてが若さと情熱で素晴らしい「まちづくり」に励みたいのである。市民一人ひとりが健康の価値を再認識して、

健康寿命を伸ばす努力をすへべきである。市民一人ひとりが健康の価値を再認識して、



健康寿命を伸ばす努力をすへべきである。市民一人ひとりが健康の価値を再認識して、

スポーツ都市新潟のさらなる発展へ

市青指導委員
井上健一 さん



本来スポーツは、楽しく、そして単に体に対する刺激剤としてでなく、豊かな人間生活の日常活動でなければならぬと思う。



NHGATA START MARATHON

皆で担ごう 皆の神輿(まち)



我々青年会議所が都市問題に本格的に取り組んで十年になる。試行錯誤の末、ようやく、その指針としての「ビジョン」を創り上げたのが「昨年の国際商業都市にいがた」を自指すというものであった。ビジョンなき運動は近視眼的にしか継続しない、確信のないことではあるが、しかし「ビジョン」(「ビジョン」を自指す)を自指すれば、それが向うからやってくるものでもない。その真意は政策が必要である。具現化の担い手が必要となる。県や市として経済界、農業団体、婦人団体という生



新潟青年会議所理事長
五十嵐祐司 さん

活での切り分け、老人、青年、子供と年齢で切り分ける。二十二年後、二十五年後、という志向する時代の切り分け等により、バランス良く担い手を設定しなければならぬ。上から担い手が足りなければ、それを育成しなければならぬ。今こそ、皆で担ごうと神輿(場)を皆で創り、それを引っ張る。それがビジョンを、新しい心(ビジョン)を見出し努力をしなければ都市間競争に打ち勝つことになり、これは死闘となる。これは死闘となる。これは死闘となる。